

病院では、患者様の「ケガや病気の治療」と「身体機能や動作能力の改善」が主な仕事ですが、訪問では、自らは地域の一員としてチームで利用者様の「生活を支えること」が大きな仕事となります。

私たちは他職種から、医療専門職としての知識や技術に裏付けられた、利用者様の生活の予後や将来像を予測することを期待される場面が多くあります。例えば、現段階では歩行器が必要だが数か月後には杖歩行できそうとか、デイサービスでは機械浴だが数ヶ月後には訪問介護で自宅で入浴できそうとか、利用者の新しいライフスタイルを作ることへの貢献を求められます。地域のケアマネジャーや看護職、介護職と同じ方向を向いて仕事をして、リハが関わると物事がうまく運ぶことを知ってもらうのが理想です。

利用者様が自分らしい生活を送るためには、筋力や関節可動域、ADLの点数がアップすることももちろん大切ですが、ご本人が自分の症状や病態を理解、解釈して行動が変わったり、ご家族が積極的に利用者様の生活に関わるようになることは、もっと重要だと考えます。チームを構成するケアマネジャーや他職種が、私たちのそんな考え方や働きかけを理解し共有することに価値があるし、そのプロセスと結果が地域で働くことの面白さであり、私たちのモチベーションになっています。

地域で働くにあたって私たちに求められるのは、「教えていただく」という謙虚な姿勢、誰でもわかる平易な言葉でシンプルに表現するコミュニケーション能力、チームを築く調整力とそれを動かす熱意、気長に待つ忍耐力などです。また専門職としては、身体機能や動作能力だけでなく生活や人生を見る視点、物事のトリアージができる知識や経験、社会環境の変化に対応できる情報収集力など、自己研鑽を図る必要があります。

病院や施設とは違った環境、多様な価値観が地域にはあります。そこで働く同志を増やすことも今、地域で働いている私たちのミッションです。